

# 京都府市長会

コロナ禍による活動の中断期間の間に京都府市長会としてプロジェクトに関わった職員や関係市の職員も人事異動等により交代し、最近では総会でのニュース配布などの形式的な取組にとどまっております。今後の展開にあたりましては、京都府内各市町村それぞれの自主的な取組が重要であり、そのためのきっかけづくりや後押しをするための事務局間の連携強化などが必要であると感じております。



## 特別区長会と京都府市長会は、平成28年4月26日に広域連携協定を締結しました。

### お茶の文化が息づいている山城地域

#### 宇治市 UJI-SHI

##### お茶と源氏物語のまち「宇治」

「宇治茶」の本場「宇治市」。お茶の名前にちの名前がついています。宇治茶は、鎌倉時代の初めに源頼朝上人により宇治に伝えられたのが始まりとされています。宇治川の朝霧などの自然と風土、覆下層に代表される茶づくりの技術に培われ、宇治茶は歴史のなかで育まれてきました。また、紫式部によって書かれた「源氏物語」の最終の舞台となった宇治には、往時を偲ぶ古跡が点在し、訪れる人を遠く王朝文字の世界へと誘ってくれます。さわやかな香りに包まれながら、宇治散策を楽しみましょう。



#### 城陽市 JOYO-SHI

##### 緑と太陽、やすらぎのまち城陽市

城陽市は昭和47年5月、府下で8番目の市として誕生しました。城陽市は京都から五里、奈良から五里に位置し、古い歴史を物語る古墳や史跡、社寺が南山城地域の特色あるたずまいを見せています。豊富な地下水を利用した花しょうぶやかきつばた、カラーなどの湧水花き類の栽培、京都府一の面積を誇る青谷森林、寺田も（まつい）、いちじく、木津川の浜で栽培される茶、そして全国一の生産量を誇る金銀茶など各種の特産品をはぐくんでまいります。知名度の高い宇治茶の生産地・山城地域の中でも、城陽市は抹茶の原料となるん茶の生産地であり、農林水産大臣賞を受賞した農家もあって、高い品質のお茶づくりが行われています。毎年10月には、多くの人々に城陽産のお茶を知ってもらうとともに、お茶の持つ文化性を広め、城陽まつり」が発見神社で開催されています。



#### 八幡市 YAWATA-SHI

##### 歴史と文化に育まれた田園が広がる八幡市

京都府西部、木津川・宇治川・桂川が淀川となる三川合流地点に位置する八幡市は、貞観2年(860年)の石清水八幡宮の遷座以来、その門前町として日本に残る多くの歴史を刻んできました。昭和47年(1972年)に男山田の開発が始まり、爆發的な人口増加を選び、昭和52年(1977年)に市制を施行。都市機能を有した歴史文化田園が調和したまちづくりに取り組んでいます。石清水八幡宮には珍しい「銀茶湯」があり、境内の雄徳山茶園の茶葉はお祭りや振興茶などで使用されています。



## 宇治茶の文化的景観を世界文化遺産に。

世界に類を見ない技・味・文化、「宇治茶」。日本の歴史と共におもてなしの心を育ててきた世界の宝です。700年の時をかけた磨かれた極上の宇治茶生産の景観を世界文化遺産に。

### 宇治茶の文化的景観

京都府南部の山城地域はお茶の生産技術を向上させて、日本茶を代表する抹茶、煎茶、玉露を生み出した「日本茶のふるさと」であり、約700年間にわたる宇治茶の生産を行ってきました。「宇治茶の文化的景観」は、緑茶としての独自の発展とさまざまな喫茶文化を生み出した歴史を物語る無二の景観で、現在まで脈々と受け継がれています。

### 世界遺産暫定一覧表記載に向けた提案書

京都府では、日本茶・宇治茶のユネスコ世界文化遺産の登録を視野に、宇治茶の振興に取り組んでいます。世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書を平成26年3月に作成しています。



#### Route 1 はちまんさんのまちから始めるリバーサイドサイクリング

京阪八幡市駅前から、レンタサイクルで流れる(上津屋橋)まで走るルート。まずは、固定「石清水八幡宮」にご参拝。昔ながらの名産物や花堂を参拝し、川沿いのサイクリングロードへ出て、気持ちいい風に吹かれます。橋守として知られる「浄安寺」にはぜひ足をのこしてください。

【やわたのはちまんさんへ】京阪八幡市駅から徒歩にすれば、約3分です。石清水八幡宮に参拝。見聞のいい風景から、涼しい風が吹きます。参拝し、自然ゆたかな参道を下りよう。

【CHECK!】肉離れや足の痛みを防ぐため、1日2回、御本堂を案内していただく見守り係(1人1000円、中学生500円)は見守り係に申し込むか、自然ゆたかな参道歩いて下山しよう。

京阪八幡市駅前の観光案内所に立ち寄り、レンタサイクルを借りよう。

【これぞジャニーズビューティー】肉離れや足の痛みを防ぐため、1日2回、御本堂を案内していただく見守り係(1人1000円、中学生500円)は見守り係に申し込むか、自然ゆたかな参道歩いて下山しよう。

【水津川のフォトスポット】川沿いのフォトスポットを満喫し、四季折々の風景を楽しめば、木津川にかかる木造橋、通称「寝れ橋」へ。ここでは時代劇のロケ地にもなること多い「名産物」で知られる「宇治茶」の景観もお茶どころならではの、歴史文化の香りを感じながら、自然に浸ります。

【CHECK!】便利なレンタサイクル京阪八幡市駅前の観光案内所・松花堂茶園・美南館・やわた流橋交通プラザ四季折々の3カ所で貸出金額約0円。3時～16時(四季折々は10時～)1日500円(貸出保証金500円。保証金は自転車返却時に返金)

【河津川】川を渡って、橋守として囃しされる歴史あるお寺へ。2月の中～4月中旬の期間に限定し、お寺への参拝とお寺の景観に出会えます。お寺の裏手にあるエピソードを聞かせることも、(写真は橋の様子)

#### Route 2 日本茶3種を楽しむお茶づくしデートコース

玉露の生産が盛んな京田辺市、煎茶の里として名高い和束町をめぐり、お茶づくしデートコース。抹茶に精通した一休、茶づくしの道場「一休」で抹茶を楽しむ。お茶づくしは玉露を使う贅沢な茶を味わい、一休亭へ。再び車を進ませ、日本茶の茶畑に見惚れる。お茶づくしを学んで帰ろう。今でも数人でいるお茶畑は、皆味や甘味のあるおいしいお茶に出会える時間です。

【抹茶一休亭】一休が晩年暮らした寺で抹茶を味わおう。[京田辺駅]京田辺駅から徒歩5分ほど。林檎が晩年を過ごした願地一休亭で、心静かに抹茶を一品。その後、江戸初期の貞宗家で文人の松花堂茶園。夜明け前の京田辺の合併伝わる方丈庭園(国の名勝)を眺めよう。南庭、北庭、東庭の三面からなる庭園は、それぞれ趣が違います。

ランチは茶葉の旨味が生きる玉露そば。京田辺市内の宇治茶カフェへ。抹茶パフェやほうじ茶パフェといった、お茶メニューを道及したカフェメニューがある中、食事メニューとして玉露そばをどうぞ。

【お茶の茶園】目に美しいほどの美しい茶園に癒される。お茶のことをもっと知りたかったら、茶園と噂される御茶へ。標高300m程度の山に茶園が広がる。茶園には、日本茶の歴史を伝える。京田辺市にある京田辺市の石寺の茶園はぜひ見ていただきたい。

【自家製で楽しむお茶の淹れ方をマスター】最後は、見習いお茶淹れ方が広がる和束町で、日本茶インストラクターから煎茶淹れ方の淹れ方を学ぼう。美味しい淹れ方を学ぼう。淹れ方だけでなく淹れ方の淹れ方を学ぼう。淹れ方だけでなく淹れ方の淹れ方を学ぼう。

【CHECK!】日本茶の本場の淹れ方を知りたいなら、淹れ方を学ぼう。淹れ方だけでなく淹れ方の淹れ方を学ぼう。淹れ方だけでなく淹れ方の淹れ方を学ぼう。

平成29年度  
第1回全国連携展示にて、  
京都府の市町村を紹介する  
展示を行いました!